

初期修学旅行

初代高等商業学校長矢野二郎(1845～1906)及び第2代校長由布武三郎(1862～1926)の時代の修学旅行は、後の時代の修学旅行とは異なる特徴を持っていた。ここでは、由布校長が退任する明治28(1895)年の第7回修学旅行までを「初期修学旅行」と分類することにしたい。

初期修学旅行は、次の3点を特徴とする。

1点目は視察の陣容である。初期修学旅行では、学生は原則として2人1組で地方の経済状況を視察した。18件中2件は単独の視察だが、これらはあくまで例外であったと考えられる。

2点目は視察先である。第1回から第7回の修学旅行に選抜された学生たちは、一か所にとどまることなく各地を周遊した。広大な北海道を視察した学生たちを除くと、1府県で視察を終えたのは明治24(1891)年の浅野長七だけである。彼の場合は単独での視察であり、視察先も他の学生たちよりはるかに東京に近い群馬県であった。何らかの事情により、彼の視察旅行は特別に設定されたのだろう。

3点目は視察の対象である。学生たちは対象を特定の産業に絞ることなく、地域の代表的な産業を幅広く視察した。蚕糸業に対象を限定した浅野長七の視察は、この点でも例外的であった。

作成者	資料名	調査年	調査地
藤村義苗・布施藤平	関西地方商工業実視報告書	明治22	大阪・兵庫
石井幾三郎・原田定助	九州地方修学旅行報告書	明治22	山口・福岡・佐賀・長崎・熊本
亀井藤重・土屋豊吉	修学旅行報告書(宮城県・北海道)	明治22	北海道・宮城
長尾良吉・河田大三九	新潟伏木金沢商況取調報告書	明治23	新潟・富山・石川
下條直幹	北海道修学旅行報告書	明治23	北海道
高橋三郎・桜庭豊吉	四国地方修学旅行報告	明治23	徳島・香川・愛媛
浅野長七	上州地方蚕糸取調報告書	明治24	群馬
児玉謙次・柳谷巳之吉	東北地方修学旅行復命書	明治24	北海道・青森・宮城
郷隆三郎・武村貞一郎	赤間関門司地方修学旅行報告	明治25	山口・福岡
青柳龍五郎・御酒本徳松	新潟伏木地方修学旅行報告書	明治25	新潟・富山
関孝助・加地利夫	—	明治25	大阪・兵庫
福田徳三・坂田重次郎	修学旅行報告	明治26	栃木・群馬・長野・新潟・富山・石川・福井
八十島親徳・北村久義	北海道及青森岩手宮城福島四県修学旅行報告書	明治26	北海道・青森・岩手・宮城・福島
佐野善作・小林和介	山梨県一円長野県諏訪伊那視察報告書	明治27	山梨・長野
七海兵吉・楠目成俊	福島新潟両県下修学旅行報告書	明治27	福島・新潟
須田鏡造・岩橋大六	北海道商工業視察報告書	明治28	北海道
栖原啓蔵・森川銚太郎	八王子山梨静岡愛知四県下修学旅行報告書	明治28	東京・山梨・静岡・愛知
大熊篤太郎・大谷登	北陸地方商工業景況視察報告書	明治28	新潟・富山・石川・福井

※関・加地報告書は現存しないが、大阪と兵庫に赴いたとの記録が残っている。

表1 初期修学旅行一覧